

## 昭和二十四年四月——六月

### 四 月 中

#### 一、概 況

均衡予算の成立実施により経済安定化の具体策は強力に推進されることとなつたが、これにより事業界の金詰りは一段と深刻化が予想され(各店)各方面共見返資金の運用及び本行の金融政策に関心を集中し(大阪、秋田)時期的デフレ調整を要望している(甲府)。就中中小企業は深刻な整理気運に見舞われ(各店)中小企業防衛同盟(甲府)金融危機突破大会等具体的動きも見られる(新潟)。

徴税は一段落したが政府支払の地方浸透は本格化せず加うるに税負担の加重、滞貨の増大、銀行の貸渡り等に甚間の金詰りは一向に好転せず(各店)不渡手形が激増しているが(京都、岡山、熊本、鹿児島)物品販売業者振出の手形小切手の不渡が多く政府支払の促進、納税の時期的調整が強く要請されている(広島)。

農村の金詰りを反映し農業手形の利用も昨年を遙かに上廻り(青森、福島、新潟、甲府、下関、熊本)単作地帯の資金窮乏はテンポを早めると共に(新潟)養蚕経営の困難に往年の農業恐慌再来の声も聞かれる(福島)。

月末行われた為替レート決定の発表は意外に早期であつたため一般は稍々戸惑いの態であつたが予想よりの円安に好感を以て迎えた様である(各店)。然し輸入面のハネ返りと今後の価格体系の動きに多大の関心を示している向も見受けられる(青森、福島、下関、長崎)。又為替レートの決定により市中銀行筋の貸出警戒態度は若干緩和される場合もあるが(札幌、大阪、秋田)、海外市場の物価低落傾向に徴し一層合理化を促進する必要があるとする者も尠くない(各店)。又単一レート決定により貸出拒絶に恰好の口実が出来たとする向もあることは注目される(松江)。尚レート決定を機として通貨措置説が再燃したが(静岡、広島、松江)、反面一頃の通貨に関するデマが影を潜めた地方もあつた(熊本)。

商況は購買力の低下に依然沓えず物価は相変わらず横這いを続け(各店)、主食は新価格発表に徴騰したが(小樽、仙台、神戸、広島、下関、長崎)、野菜は統制撤

廃直後に昂騰したものの(青森、新潟、金沢、静岡、京都、大阪、神戸、広島、松山)漸次下押気味で(小樽、仙台、岡山、松江、下関、福岡)出廻期になれば統制時代の公価を下廻るものと見られている(熊本、鹿児島)。

#### 二、預 金

期末粉飾の反動で更月後の手形交換高は銀行協会創設以来のレコードを示す等(札幌)、月初預金は大幅に減少し(各店)中旬以降徴税の一段落に稍々戻り足をみたが期待された政府支払の地方浸透は本格化せず月中を通じて減少した(各店)。

農業協同組合預金の引出は納税一段落に加え、超過供出代金の流入により漸く小康状態を呈したが(熊本、高松)、農業手形は適用品目の拡大に加え農村の金詰りを反映してその利用は旺盛である(各店)。

#### 三、貸 出

市中の金詰りを反映して資金需要は益々旺盛を極め(各店)、借入申込も所謂常連が多くなつて(各店)神戸、市銀筋は経済界の先行警戒と預金不振に貸出引締を一段と強化し(各店)本行の高率適用を口実にしている向もある(京都、熊本)。

資金需要は組織関係資金(金沢、大阪、京都)政府支払遅延に基く繋ぎ融資(仙台、岡山)整理融資(神戸)等が目立つているが、公団認証手形は決済遅延に敬遠され(小樽)公団金融の健全化が要請されている(札幌)。なお最近の融資傾向として預金担保貸出が増加すると共に(小樽、前橋、甲府)割引手形にも根担保徴求の気運が濃化しているが(静岡)、一般に銀行側は資金の長期化を嫌い極力短期運用に努め又蚕糸公社の如き買入調整機関の設置(福島)漁業保険制度の創設等(仙台)を要望している。

#### 四、通 貨

租税を主因とする政資の揚超は中旬以降徴税の一段落に鈍化すると共に下旬に入り政府支払が稍々進捗し加うるに恒例の給与資金、農家の春耕資金等(札幌、新潟、金沢、福島、熊本)現金需要が擡頭したため月中を通じて銀行券は発行超過に転じた地方も多く、年初来の大幅還収超過趨勢は漸く底をつくに至つた(各店)。

## 五、単一為替レート決定と輸出産業

単一レート決定を機として産業界は新たな段階に直面することとなったが当初の予想より円安に決定されたため綿人絹等の繊維工業、農林水産物等円高産業の前途は明るい。然し乍ら原料輸入のハネ返り（ミシン工業、毛織物）及び将来の需給関係（絹織物）等より手放しの樂觀を許されないものもある。又従来の円安産業と雖も現在の輸出価格に可成りの含みがあるものもあり（つり針、ガラス玉、リソコ罐詰、毛筆）原料の値下り（蓮）手数料の引下げ（杞柳製品、針）一貫作業の実施（農機具）輸出地価格の引上げ（造船、楽器、給日傘）及び経営の合理化による生産費の切下げ（双眼鏡、腕時計、クリスマス電球、陶磁器）によりレート設定の影響を回避し得るものもある。然し乍ら自転車、高級陶器、ゴム製品、セルロイド、硝子製品、皮革、模造真珠、バンコック帽、縫手袋等は合理化の余地乏しく出血不可避と見られている。特に輸出品の大宗たる生糸の打撃は大きく、業者は二十三年度産生糸の滞貨処理及び之が損失補償問題及び今後の繭価決定補給金問題等政府の対策を注視している。かくて各企業はレート決定による優勝劣敗の波に揉まれ、その圧迫は中小企業に皺寄せられる可能性が強く協同作業、販売網の組織化による真剣な合理化が要請されている（各店）。

## 五 月 中

## 一、概 況

均衡予算の実施及び為替レート決定による我が国経済安定化に対し産業界並に金融界は之が順応態勢に一段と真剣味を加え（各店）、勤労者も概して協調気運にあるが（札幌、甲府、神戸、松山、高知）、一部には外部勢力の介入等による労働組合の政治闘争が顕現化している（福岡、京都、下関）。

一般購買力の減退に貨物の動きは減少を示すと共に（函館、青森、岡山）、取引単位の縮小を反映して大口扱に代り小口扱の申込が目立ち（福島、松江）、ストツクの増嵩売掛金の増加を主因に企業のお金詰りは一般に深刻さを加えている（各店）。殊に海外購買力の低下による染色工業のお金詰りは悪性化する危険を包蔵している（大阪）。然し整理気構えが却て労働意欲の向上に役立つ面も見受けられ金詰りが生産を阻害する域には未だ達していない（大阪）。

政府支払の進捗に市銀筋の手許は寛いだが、依然貸出厳選態度を堅持しており（各店）、市銀筋の保身的態度を非難する声も高まっている（小樽、広島）。しかし信用度の高い企業に対する融資は可成積極的で（神戸）、金融上の明暗二筋道が極めて判然として来ている（名古屋）。月央発表された対日中間賠償取立中止の報は最近の朗報として一般に多大の感銘を与えたが（各店）、稼動率の低調、経費の増嵩に必ずしも安易な樂觀は許されない（前橋、広島）。蚕糸の統制撤廃に春繭初取引が注目されたが、掛目決定は慎重を期して後日に譲り暫く状態をみることをなつた（静岡）。又養蚕家製糸家双方共繭価決定に対し積極的態度表明をさせているため銀行側の購繭資金融資も形勢觀望の状態を脱し得ないが（前橋、福島）、地元産業育成上最低限度の融資は已むを得ないとしている（名古屋、松本、岡山、松山）。又絹織物の統制撤廃は輸出契約、キャンセル問題が機業界に多大の衝撃を与えた折柄（福島）今回の措置を歓迎し内需転換に活路を求めており（京都、前橋、甲府）問屋金融の復活も予想されている（前橋）。

## 二、預 金

地方分与税分与金、預金部貸付金等の政府支払及び貿易配炭等の公同資金の支払進捗に公金、公団預金は増加したが（各店）、一般預金は新種預金の吸収順調（大阪、金沢、前橋）、取引不振による滞溜資金の増加（新潟）及び漁獲代金（金沢）野菜代金（高松）の流入に稍々持直したものの基調は依然伸び悩んでいる（各店）。

納税準備預金は発足早々のことで低調は免れないが（松本、京都、長崎）、納税強行に納税準備の必要を痛感している折柄今後の増加が期待される（岡山、広島、鹿児島）。然し納税という副次目的を有する制約預金には一応のリミットの存在を認めざるを得ない（静岡）。

## 三、貸 出

公団、公金預金の流入に市中金繰は寛いだが市銀筋の貸出態度は依然消極的（各店）、本行借入金返済、コールの放出、公社債の買入等が目立つた（各店）。

右の如き市銀筋の貸出の鈍化は政府及び公団支払の進捗による既往融資の回収（大阪、京都、金沢、岡山、松江）季節的資金需要の減退（函館、高知、福岡）安定見越しによる借入の減少（甲府、京都、大阪、高松）及び購繭資金（仙台、松本、

甲府、名古屋、京都、熊本）人絹滞貨融資、原棉代融資（大阪）に備える手控態度を挙げ得るが根本的には先行不透明による銀行側の消極的態度に在るものと見られる（各店）。

#### 四、通 貨

政府支払の進捗にも拘らず、食糧、専売等の受入好調と本行貸出の減少を反映し札幌、下関、高知、長崎に於ける若干の出超を除き一般に還収超過を示した（各店）。

#### 五、商況及び物価

一般購買力の低下に加え農繁期を反映し商況は全く不振で（各店）、宣伝売出戦術では挽回し得ず（静岡）雜貨金物類の投売が目立っている（青森、新潟、金沢、大阪、広島、大分）。實際物価は端境期を控え主食類は微騰したが（各店）、頭打ちの感があり（小樽）、綿物は急騰したものゝ（小樽、熊本）、統制撤廃による銘仙類の値下りが目立ち（京都、神戸、鹿児島）、全体として軟調で下押し気味にある（各店）。

### 六 月 中

#### 一、概 況

滞貨の増嵩、売掛金の回収難を主因とする金詰りは、本行斡旋による協調融資の進捗、特に大手筋炭礦未払金整理融資の実施により部分的に若干緩和されたものの、世界物価の下落傾向及び非資金の不足等に因る輸出不振も加わって、大勢としては益々深刻の度を増しつゝある（各店）。之が為め貸金還払乃至不払（京都、秋田、松山、青森、熊本）、海陸の貨物輸送量の減退（函館）、倉庫の出入庫高の減少（小樽）が顕著となつた一方、不渡手形の増加が目立つて来た（仙台、静岡、金沢、岡山、神戸、広島）。金詰りは業種別には機械器具工業及び製材木製品工業に於て著しく（札幌、仙台、福島、松本、高知）、規模別には依然として中小企業に於て深刻であるものゝ大企業もその例にもれず（各店）、金融機関の融資の選択傾向、統制整理の進捗と相俟つて企業間の優勝劣敗が顕著となるに到つた（大阪、名古屋）。金詰りの切抜策として人員整理が活潑に行われているが、企業規模の縮小延いては企業閉鎖に到るものも尠くなく（各店）、特に輸出不振に喘ぐ輸

出絹織物業者は七月一ヶ月間の一斉操業停止を申合せたことが注目される（金沢、静岡、新潟）。之に対し労働組合の動向は、多少の出血はやむを得ぬものゝ之を最少限度に喰止めようとする現実的な線まで後退しているものもあるが（京都、長崎）、背後勢力と結託し、強力な反撃に出ようとする気運が強い（各店）。なおデラ颱風の被害は西日本に於て意外に大きく、産業関係でも漁船（松山、大分、松江）、麦、馬鈴薯、煙草、夏野菜等農作物（高知、九州各店）及び塩田（高松）に多大の被害を与えた。

#### 二、預 金

通貨安定見越により小口預金（甲府、松本、大分）、新種定期預金（各店）の増勢良好であるが、新種定期預金中には振替乃至両建のもの多く（小樽、京都、岡山）、又政府資金が引揚超過となつた関係もあり、総体として預金は仲悩み状態である（各店）。然し漸減傾向を辿つて来た農業協同組合預金は、春蒔、供出麦、馬鈴薯代金の流入等により中旬を峠として増勢に転じた（広島、松本）。

#### 三、貸 出

最近新規貸出を極力抑制し既往融資の回収に努めて来た市中金融機関は、依然融資態度に慎重を期しているものゝ、漸く選択貸傾向を示し（各店）、優良企業に對しては積極性を取戻しつゝある（大阪）。月中の季節資金たる購辦資金については、養蚕家と製糸家との間に貫当り四百五十円見当の仮払金交付の契約が成立し、金融機関側も前途に危惧を抱きつゝも地元産業育成の立場から融資に応じ始め、当面の藪受渡は事無きを待たが（各店）、今後の掛目決定引続く精算払に相当の困難が予想される（前橋、甲府、松本）。農業手形の利用は昨年より遙かに多く、又予想以上に達したが（各店）、之は農家の深刻な金詰りを根本原因とするものゝ、なお制度の徹底、手続の簡素化に因ることも看過出来ない（松本、静岡）。本月発足した国民金融公庫に對する借入の申込は、各地とも支所の割当額を圧倒的に超過し、中小企業の金詰りの深刻さを如実に物語っている（札幌、福岡、大分）。

#### 四、通 貨

政府資金の引揚超過に加うるに、農繁期に入り農村方面の現金需要の減退を主

因として、秋田、静岡、下関、門司、長崎に於ける若干の出超を除き、一般に還収超過を示した(各店)。

#### 五、商況及び物価

一般購買力の低下に加え、農繁期梅雨期に際会したため、商況は一般に前月より一層不振で、従来比較的好調であつた百貨店の売上高すら前月に比し減少している(各店)。之がため引続き陶器、電球、マツチ等一部商品の投売が弗々行われているが(高松、鹿児島、松山)、投売は未だ全般化するに到つてない(各店)。實際物価は、生産財の下落が目立ち(大阪)、消費財も端境期で米が微騰した外絹製品、日用雜貨品、燃料は下落を示し、全体として下押気味である(各店)。

### 昭和二十四年七月——九月

#### 一、七月中

#### (一) 概況

輸出不振と国内有効需要の減退に基く、デフレ懸念深化の折柄、本行の割引適格貿易手形の高率適用除外、高率適用最高利率の引下げ、公開市場政策の活潑化等積極的金融緩和施策は一般に好感を以て迎えられ、市中銀行の融資態度も緩和した。然しながら中小企業方面に対する融資は、業者の経営内容に鑑み充分の浸透は見られず、この方面の金詰りは依然深刻な様相を呈している。

行政整理に呼応して民間企業の人員整理も本格的実施段階に入り、失業者が増大しており、地方庁に於ても失業対策を真剣に取り上げているが、地方財政の現状より余り期待出来ず政府の早急援助を望んでいる。

統制撤廃見越しと夏枯期に入り滞貨は益々増大し業種も漸次拡大しており、殊に石炭統制撤廃の報は各炭礦に多大の反響を呼び、その動揺は蔽い難く、政府の保護政策に浴した石炭礦業に愈々転換期が到来するに至つた。

#### (二) 金融

#### 預金

月初に於ては期末粉飾の反動、納税資金の引出に預金は減少を示したが、月央

以降租税の移納一服旁々地方配付税の流入、政府指定預金の預入に持直した。然し一般預金は政資の引揚好調、商況不振を映じて伸縮みの状態である(各店)。唯割増金附定期預金が預金振替乃至両建が可成り認められるものゝ比較的好調で(各店)、小口の応募者が目立ち、大衆の貯蓄意識の向上が窺われる(小樽)。かゝる折柄市銀筋では今回の定期預金レートの引上に対し利上げすればそれ丈の効果があるともており(小樽、札幌)、資金コストの上昇に対しては預金増加を以てカバーせんとする気運がみられる(前橋)。然し他方一般の金利観念薄弱であり(大分)、実質的効果は期待薄であるとする向もある(青森、松江)。農業協同組合預金は麦、馬鈴薯代金の流入により稍々寛ぎをみたが(各店)、租税移納(松江、高松、松山)閑収入の減退による生活資金の引出旺盛で(岡山)、その歩留り状況は昨年比し著しく低調であり(岡山、松江、高松、松山)、農村経済後退の一端を示している(福岡)。

#### 貸出

金融機関の貸出態度は引締方針を緩和し、優良企業に対する融資は寧ろ積極的で増加しており、購置資金を始めとする季節的資金も円滑に供給され(各店)、大口貸出の増加が目立っている(大阪)。然し地方銀行筋は地場融資に協力を示しているものゝ(札幌)融資先の選択に苦慮しており(松江、熊本)、余資を社債、割引興業債券の消化にむけているが(各店)、優良銘柄社債の買入難を訴えており(札幌、熊本)、本行の復金債買入所作に対しても手許潤沢の折柄売急ぎを見せていない(前橋、松本、静岡、新潟)。又信用組合、無尽会社手持国債の買入措置は中小企業資金難の折柄一般は好感を以て迎え(各店)、中小金融を相当潤すものと期待されるが(札幌)、売急ぎの気配が認められないところもある(静岡)。

月末指定預金の預入は予期していなかつただけに格別の使途に振り向けるに至らず、本行貸出の返済、割引興業債券の買入、コールの放出にあてたが(各店)、益資金需要期を控へ有効に活用せられるものと期待されている(静岡、高松)。

新設の漁業手形制度については業者としても金詰りの折柄強い関心を示しているが(札幌、青森、仙台、高松、高知、長崎、鹿児島)、共済金の裏付に限界があり、且水物金融で危険率が大きいことは争えず(札幌、青森)、殊に繋ぎ融資に